

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195000120		
法人名	北見福祉事業サービス株式会社		
事業所名	グループホームしあわせ館		
所在地	北見市東相内町143-32		
自己評価作成日	平成31年1月28日	評価結果市町村受理日	平成31年4月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者さまがやりたいと思ったことは「今」やっていたらこうという事に力を入れています。スタッフから見ると出来ないかもしれないと思うことでも、ご本人が「今」やりたいと思った瞬間を大切に、利用者様の限界をスタッフが決めない事を基本にケアを行っています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	hlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigvoynoCd=0195000120-008
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	平成31年2月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

北見市東相内地区に平成19年に開設されましたグループホームしあわせ館は現在は同敷地内にデイサービス、サービス付き高齢者住宅、有料老人ホーム、居宅介護支援事業所、訪問介護事業所が開設されています。グループホームでは他の事業の資源を活用しておりデイサービスへはボランティアの行事に参加したり、機械浴の施設の利用をしています。代表者は介護事業にも「おもてなしの心を」との気持ちから全職員がANA接客マナー講座の受講を決め、派遣してスキルアップを図っています。また職員間のレベル格差の解消のために経験のある職員による指導体制を作り研修指導を行う計画を立てています。「人に寄り添い 笑顔で語らう」「人に寄り添い 心に寄り添う」の理念のもと利用者の日常の会話の中から思いを把握し実践できることに力を注いでいます。特に家族との関係を重視した取り組みを多くし行事や外出が出来る様支援しています。気候が良くなると付近へ散歩に出かけ近所の人と会話をしたり、行きつけの美容室、ラーメン店、スーパーでの買い物と外出支援を活発に行っています。家族がグループホームで食事することや宿泊することも楽しい時間が過ごせるよう支援に取り組んでおり、利用者、家族との信頼関係が構築された事業所と成っています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/>	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) <input type="radio"/>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) <input type="radio"/>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) <input type="radio"/>		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に密着した理念を掲げ、地域の方にも認知症の理解を深めて頂き、認知症になっても住みやすい地域をめざし、様々なとりくみを行っていききたい。	理念を各ユニットリビング、応接室に、法人の運営方針を玄関に掲示しており新人研修や毎年会議にて管理者が説明し共有して実践に繋がっています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の公園までお散歩している。施設の避難訓練にも参加して頂いている。事業所の行事への参加を呼びかけ、事業所への理解を深めていききたい。	町内会に加入し連絡等回覧板が回って来ており、清掃活動に参加しています。気候が良くなると付近に散歩に出かけ地域の方が気軽に声掛けをしていただき日常的に交流しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、認知症の症状や対応の仕方等説明し、理解を深めて頂いている。地域の情報誌にグループホームでの出来事をコラムにして紹介している。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開き、写真や動画を使用し、グループホームでの取り組みを報告し、意見をいただいている。	運営推進会議は年6回利用者家族、町内会役員、市担当者、包括、駐在さんその他多くの出席があり経過報告後に質問、意見を得て運営に活かしています。会議が身体拘束委員会を兼務することを了承されています。	利用者家族への文書での開催案内と結果の情報共有を期待します。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所へ出向いたり、運営推進会議の際に施設へ来て頂き、担当者へ相談や意見をいただいている。必要に応じて協力をお願いしている。	市担当者とは運営推進会議での指導や介護保険法や共用型グループホームの情報を得るために訪問しています。また、報告書提出や待機者報告を積極的に知らせ協力関係を築いています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを行っている。運営推進会議時に身体拘束委員会を行い、身体拘束への知識を深められる様に努めている。ケア会議などで身体拘束について話し合いケアを行っている。	身体拘束廃止に向けては運営推進会議が兼務することとなり報告、検討を行っています。職員へは、弊害や禁止行為、不適切な言葉遣いについて研修に取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理、スタッフは外部の研修や社内研修にて虐待についての知識、理解を深められる様に努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者・スタッフ共に日常生活自立支援や成年後見制度についての理解が乏しい。今後、研修会への参加や社内研修にて理解を深めて行く様努める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時には利用者やご家族の不安、疑問点が残らないように説明し、その場で解決できるようにしている。また、新たに不安や疑問点があればその都度伝えて頂き、説明させて頂き理解を深めていきたい。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者との日常的な会話から、要望、意見を聞き取り、ご家族には面会時にこちらから意見、要望をお聞きするようにしている。運営に関する事は、早急に対応するように努めている。	利用者、家族の意見や要望は日常的な会話や面会時に主に管理者が話を伺うようにしています。咀嚼、嚥下が不自由になった時には合う形状の物を工夫したりで、家族に報告しながら取り組んでいます。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日常的にスタッフの意見を聞き、提案はケア会議等で話し合いを行い、運営に反映するように努めている。	職員の意見や提案は日常業務の中で把握し毎月開催しますケア会議の中で話し合いながら運営に活かしています。研修は介護関係の研修の他、介護にもおもてなしの心をとの代表者の思いでANAの東京研修に参加し利用者、家族への心遣いに役立てています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況、労働時間等を把握し、個別面談を行い、本人の取り組みたいこと等を聞き、相談、意見している。頑張っている人が報われるように給与に反映するよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人一人のレベルに合わせた外部の研修へ参加する機会を設けている。外部の研修に参加した際には研修へ参加していない職員へケア会議等伝える様に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等に参加し、同業者との交流を行っている。他事業所との連携を図り、意見、情報交換を行っていききたい。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを利用開始する時は、スタッフ、入居者共に信頼関係の構築に努めている。ご本人の要望もお聞きしながら、安心できる環境を作れるように配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者を中心に、スタッフとご家族との信頼関係構築に努めている。面会の際には、声をかけ、不安や要望をお聞きするよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを利用開始する前にご本人、ご家族にお会いして、ご本人、ご家族に必要なサービスを提供できるようにケアプランを作成している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気を大切にし、ご自宅での生活に近い生活を行なえるように努めている。趣味、掃除、家事参加を進めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族と過ごす時間を大切にし、ご家族と一緒に外出や食事等を計画、実施している。今後もご家族と過ごせる時間を大切に計画、実施していきたい。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室や馴染みのあるお店での買い物等の支援を行っている。また、入所される前のお友達と電話でお話できるようにしている。	馴染みの美容室への訪問は家族が事業所で状況に応じてお連れしています。友人の訪問があり関係が途切れないように支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性を見極め、良好な関係を保てるように配慮している。利用者様同士出た不安な気持ちなどを話しお互いに支え合えるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去される場合等必要に応じて情報提供や相談、支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的な会話の中からご本人のやりたいこととくみ取り、支援を行っている。困難な場合は、ご家族に相談し、実施できるように検討している。	利用者の思いや暮らし方の意向は会話の中で把握し、日常の仕事や買い物、外出等希望に沿った支援が出来る様検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から情報をお聞きして把握し、継続できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の心身状態、有する力等の把握に努めてはいるが、十分とは言えない。今後ご本人の出来る事を見極め、継続して行えるようにケアに繋げていきたい。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族と相談し、ご本人らしく生活できるように現状にあった介護計画を作成するように努めている。	介護計画は6ヶ月毎に利用者、家族の意向を把握し、毎月のカンファレンスを行いながら現状に即した介護計画を作成しサービス提供に努めています。暮らしの現状の把握等では経験年数豊富な職員が指導することを次年度の目標として取り上げ継続した介護になる様取り組む事としています。	ケース記録に於けるサービス提供記録等の記載の工夫を期待します。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人一人の記録に、ケアプランが印字されておりスタッフが実施できるようになっている。記録が不十分な点もあるが、ご本人の状態、思いなどを共有し次回の介護計画に反映するように努めている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族と相談し、ニーズに対ししたサービスを提供できるよう努めている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で町内会、民生委員などから意見聞いている。今後も豊かな生活が送れるように努めていきたい。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族と相談しながらかかりつけ医療機関を定期的に受診している。また、往診対応の方は、医師に体調等の相談を行っている。	定期受診は事業所が対応していますが、利用者の中には家族が希望する方もおり受診をお願いしています。訪問診療や週1回の訪問看護24時間オンコールにより健康管理がなされ利用者の安心に繋がっています。各ユニットに看護資格を有する職員もいます。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度訪問看護の健康チェックがあり、ご本人の体調や状態の変化を報告している。また受診の相談なども行っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時、入院中、病院関係者との情報交換を行っている。退院時には退院後の生活の相談も行っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に「看取りの指針」についての説明を行いご本人、ご家族の意向を確認している。ご本人の状態の変化やご家族の想いが変化された際には都度、話し合いを行い、グループホームでの支援を理解して頂き、希望に沿うように努めている。	利用契約時に医療連携体制同意書により重度化した場合や看取りに関しての項目で説明し、時期になった時に利用者・家族の意向や思いを伺い訪問診療に移行して頂き同意を得て看取り介護に取り組んでいます。今年度は数名の看取りを行っております。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急や急変時の対応の研修は行っているが、全スタッフが実践力を身に付けているとは言えない。今後も研修を重ね、実践力がみに付くように努めていきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の避難訓練は年2回実施している。発電機の保管場所、使用方法については不十分な為、今後、研修などをし全スタッフが使用できるように努めたい。	火災による避難訓練を実施しています。停電時におけるポータブルストーブや発電機などの装備はされていますが、発電機に関してはまだ不安があり、次回の避難訓練時には全職員が発電機の使用方法を学び実際の稼働を予定しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの確保は不十分な点が多い。今後、研修などを通じて理解を深めていきたい。	部屋への入室はノックなどをして利用者には知らせ入室し、声掛けや入浴時、排泄など他から見えないように羞恥心に配慮した対応に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様との会話を大切にしており、希望を伝えられ、自己決定ができるに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活のペースに合わせて、業務の内容を都度変更している。日常の会話の中から希望をお聞きし、希望に添える様に心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪の良い利用者様は職員がセットしている。外出の際にはお化粧をする様に声をかけ鏡を見てご自分でお化粧をして頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる方には調理から盛り付け、配膳、食器拭きをお願いしている。	調理専門の職員が2ユニット分の調理を担当したり、各ユニット職員が調理をする場合はユニット毎個性が出る食事となっています。家族と一緒に食事をす時は部屋を提供しゆっくり過ごしてもらっています。誕生日のお寿司や外食をしたりと楽しく笑顔になるよう取り組んでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は主治医と相談しながら決めている。水分は、お茶だけではなく、ご本人の好きな物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の状態に合わせた口腔ケアを行っている。肺炎のリスクの高い方は毎食後口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンなどを把握し、利用者様の持っている力に合わせてトイレへ誘導したり、ご本人に合った下着やパットを提案している。	ケース記録などで一人ひとりの排泄パターンを把握し、小さなサインやいつもと違う行動を見極め声掛け、誘導でトイレでの自立排泄を促しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量を調整したり、乳酸菌飲料やヨーグルトを利用者様に合わせ提供し便秘にならないように取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回入浴の声かけを行っている。利用者様の希望に沿うように、日にちや時間は変更している。	入浴は週2回を基本にしていますが、希望はその都度聞き入浴や足浴に取り組んでいます。隣接の施設には座位保持が困難な方がストレッチャーで入れる機械浴が設備されており落ち着いて入浴できるようになっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人のペースに合わせ就寝介助を行っている。眠前薬の服用時間も医師と相談し、ご本人が気持ちよく眠れる時間に内服している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書はファイルにまとめてあるが、内容、目的までは把握しきれていない。薬の変更は業務日誌やケース記録にて全職員に周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きな食べ物、飲み物は提供している。一緒に歌を歌う、散歩、音楽のテレビを見る等気分転換を図れる様に支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿うように出来る限り外出できるように努めている。ご家族と相談しながら、帰宅支援や買い物、自宅への外出を行っている。	天気の良い日には気分や体調に合わせ、畑の収穫や散歩など気分転換を図っています。全員参加のお弁当持参のドライブや神社参り、買い物やラーメンや寿司などを食べに行く個別外出支援に取り組んでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所で管理している。利用者様個人でお金の管理されている方はいらっしゃらない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に御家族へ電話をする支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	混乱を招くような刺激は避ける様に配慮している。お一人お一人が自由に過ごせるようにソファやテーブルの配置を工夫している。季節の行事の壁飾り等を飾り季節を感じていただけるように努めている。	リビングには暖かい陽ざしが入り、利用者にはそれぞれのお気に入りの場所がありソファでゆったりと穏やかな雰囲気です。適切な温湿度が保たれ、行事の写真も貼られ癒される空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルの配置を工夫し気の合う利用者様同士で自由に過ごせるような空間づくりをしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用していたものを持参して頂き使用していただいている。また、ご本人が以後ごちよく過ごせるように家具の配置を行なう様配慮している。	居室には事業所のベットや筆筒が準備されていますが、使い慣れた筆筒やドレッサーを持ち込んでいる利用者もいます。掃除専門の職員が清掃をしている為いつでも快適に過ごせるよう配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要箇所には手摺を設置している。一人一人の力を活かし安全な生活が送れるように配慮している。		